授業改善アンケート　結果集計表

2023年度前期

分 類 名	大学全体

履修者数	33492 名
回答者数	18286 名
回 答 率	54.6%

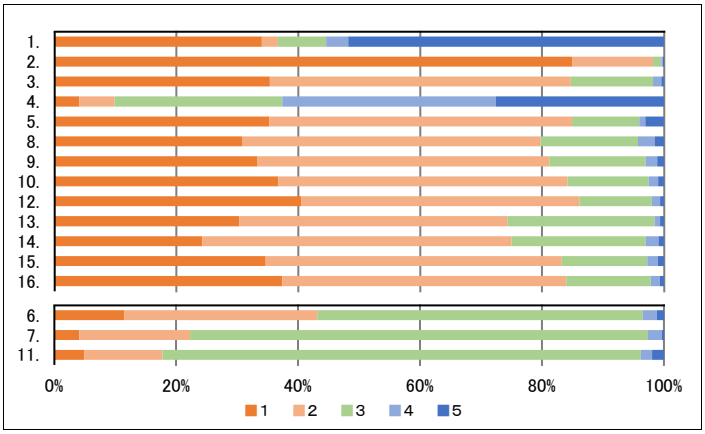
項目別回答分布(Q17.は複数回答可)

	設 問 (平均点の点数は①=5点、②=4点、③=3点、④=2点、⑤=1点)	大学平均	平均(前回)	平均(今回)	1	2	3	4	5	無効
1.	あなたがこの授業を履修した理由は何ですか。 ① 授業に興味があったから　② 教員に興味があったから　③ 空き時間があったから　④ 単位が取りやすいから ⑤ 必修科目だから	-.--	-.--	-.--	6221	484	1448	657	9476	0
2.	あなたはこの授業にどの程度出席または課題提出しましたか。 ① ほとんど出席した　② 3分の2程度出席した　③ 半分程度出席した　④ 3分の1程度出席した ⑤ ほとんど出席しなかった	4.82	4.85	4.82	15524	2432	247	38	45	0
3.	あなたは授業内容を理解するため積極的に取り組んだと思いますか。 ① 強くそう思う　② そう思う　③ どちらともいえない　④ そう思わない　⑤ まったくそう思わない	4.18	4.15	4.18	6464	9022	2470	251	79	0
4.	1回の授業につき、あなたは予習・復習を平均してどのくらいしましたか。 ① 3時間以上　② 2時間　③ 1時間　④ 30分以下　⑤ 全くしていない	2.24	2.22	2.24	744	1057	5034	6405	5046	0
5.	この授業は「講義内容」(シラバス)を基本にして行われましたか。 ① 強くそう思う　② そう思う　③ どちらともいえない　④ そう思わない　⑤ 講義内容を読まなかった	-.--	-.--	-.--	6438	9089	2018	177	564	0
6.	この授業の難易度はどうでしたか。 ① とても難しい　② やや難しい　③ 適切　④ やや易しい　⑤ とても易しい	-.--	-.--	-.--	2113	5778	9761	430	204	0
7.	この授業の進行速度は適切でしたか。 ① 速すぎた　② やや速かった　③ 適切　④ やや遅かった　⑤ 遅すぎた	-.--	-.--	-.--	757	3322	13727	417	63	0
8.	教員の説明の仕方はわかりやすいものでしたか。 ① 強くそう思う　② そう思う　③ どちらともいえない　④ そう思わない　⑤ まったくそう思わない	4.05	4.00	4.05	5629	8959	2913	514	271	0
9.	教科書や配布資料は授業内容を理解するうえで効果的でしたか。 ① 強くそう思う　② そう思う　③ どちらともいえない　④ そう思わない　⑤ まったくそう思わない	4.10	4.07	4.10	6074	8769	2893	349	201	0
10.	黒板、プロジェクター、添付資料、動画等の使い方は効果的でしたか。 ① 強くそう思う　② そう思う　③ どちらともいえない　④ そう思わない　⑤ まったくそう思わない	4.17	4.13	4.17	6712	8684	2427	289	174	0
11.	各回の提出課題の量はどうでしたか。 ① とても多かった　② やや多かった　③ 適切　④ やや少なかった　⑤ とても少なかった	-.--	-.--	-.--	896	2351	14353	333	353	0
12.	この授業に対する教員の熱意は感じられましたか。 ① 強くそう思う　② そう思う　③ どちらともいえない　④ そう思わない　⑤ まったくそう思わない	4.24	4.23	4.24	7409	8341	2168	248	120	0
13.	授業時間内外における質問への対応は適切でしたか。 ① 強くそう思う　② そう思う　③ どちらともいえない　④ そう思わない　⑤ まったくそう思わない	4.03	4.00	4.03	5553	8044	4406	165	118	0
14.	あなたはこの授業の開講時に示された到達目標を十分に達成したと思いますか。 ① 強くそう思う　② そう思う　③ どちらともいえない　④ そう思わない　⑤ まったくそう思わない	3.95	3.90	3.95	4436	9275	4022	391	162	0
15.	この授業の内容は興味深いものでしたか。 ① 強くそう思う　② そう思う　③ どちらともいえない　④ そう思わない　⑤ まったくそう思わない	4.14	4.11	4.14	6336	8881	2570	318	181	0
16.	この授業の総合評価を5段階で評価してください。 ① とてもよい　② よい　③ どちらともいえない　④ 悪い　⑤ とても悪い	4.18	4.17	4.18	6833	8524	2534	266	129	0
17.	この授業を履修して、自分のためになったことは何ですか。 ① 新しい知識や技能が身に付いた　② 新しいものの見方が身に付いた　③ 関連分野をさらに学びたくなった ④ 問題に対する発見能力や解決能力が身に付いた　⑤ コミュニケーション能力が向上した	-.--	-.--	-.--	14181	8195	5463	3693	2201	692
18.	(担当教員独自設問)	-.--	-.--	-.--	337	292	203	70	67	17317
19.	(担当教員独自設問)	-.--	-.--	-.--	239	241	192	63	32	17519
20.	(担当教員独自設問)	-.--	-.--	-.--	190	193	174	37	22	17670

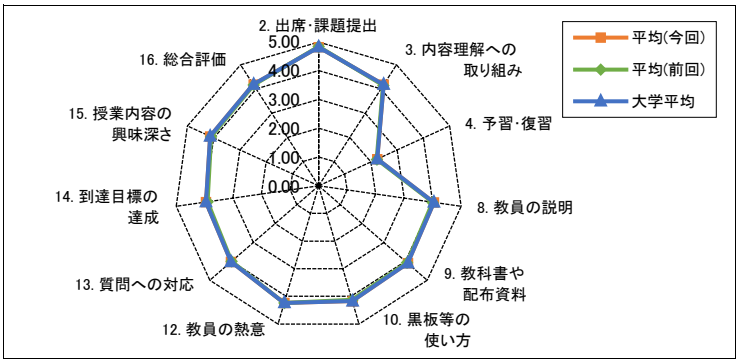
クロス集計(授業参加×総合評価・達成度×総合評価)

クロス集計させる項目	平均(今回)	設問16 総合評価 1	2	3	4	5	無効
3. 積極参加(1・2)	4.30	6517	7412	1351	153	53	0
3. 消極参加(4・5)	3.22	42	96	118	39	35	0
14. 達成度高(1・2)	4.40	6279	6668	684	62	18	0
14. 達成度低(4・5)	3.12	55	176	174	76	72	0

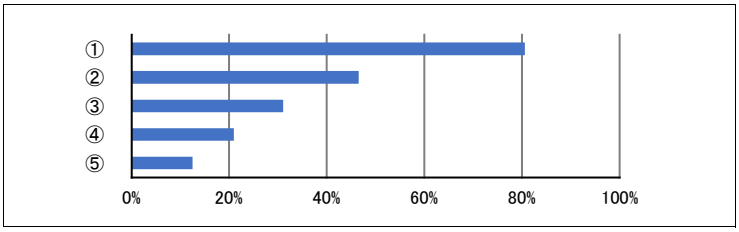
100%横棒グラフ(有効回答のみ集計)



レーダーチャート



Q17. 回答割合(有効回答のみ集計)



帝京科学大学

授業改善アンケート　結果集計表

2023年度後期

分類名	大学全体

履修者数	32660 名
回答者数	17317 名
回答率	53.0%

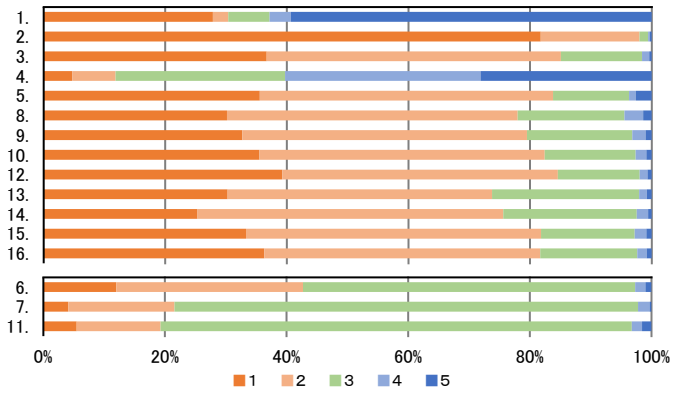
項目別回答分布(Q17.は複数回答可)

	設問 (平均点の点数は①=5点、②=4点、③=3点、④=2点、⑤=1点)	大学平均	平均(前回)	平均(今回)	1	2	3	4	5	無効
1.	あなたがこの授業を履修した理由は何ですか。 ① 授業に興味があったから　② 教員に興味があったから　③ 空き時間があったから　④ 単位が取りやすいから ⑤ 必修科目だから	-.--	-.--	-.--	4823	438	1175	607	10274	0
2.	あなたはこの授業にどの程度出席または課題提出しましたか。 ① ほとんど出席した　② 3分の2程度出席した　③ 半分程度出席した　④ 3分の1程度出席した ⑤ ほとんど出席しなかった	4.79	4.79	4.79	14156	2814	246	45	56	0
3.	あなたは授業内容を理解するため積極的に取り組んだと思いますか。 ① 強くそう思う　② そう思う　③ どちらともいえない　④ そう思わない　⑤ まったくそう思わない	4.20	4.19	4.20	6355	8377	2311	206	68	0
4.	1回の授業につき、あなたは予習・復習を平均してどのくらいしましたか。 ① 3時間以上　② 2時間　③ 1時間　④ 30分以下　⑤ 全くしていない	2.28	2.25	2.28	814	1237	4824	5566	4876	0
5.	この授業は「講義内容」(シラバス)を基本にして行われましたか。 ① 強くそう思う　② そう思う　③ どちらともいえない　④ そう思わない　⑤ 講義内容を読まなかった	-.--	-.--	-.--	6159	8347	2169	194	448	0
6.	この授業の難易度はどうでしたか。 ① とても難しい　② やや難しい　③ 適切　④ やや易しい　⑤ とても易しい	-.--	-.--	-.--	2083	5314	9460	292	168	0
7.	この授業の進行速度は適切でしたか。 ① 速すぎた　② やや速かった　③ 適切　④ やや遅かった　⑤ 遅すぎた	-.--	-.--	-.--	714	3023	13199	331	50	0
8.	教員の説明の仕方はわかりやすいものでしたか。 ① 強くそう思う　② そう思う　③ どちらともいえない　④ そう思わない　⑤ まったくそう思わない	4.02	4.05	4.02	5223	8276	3040	537	241	0
9.	教科書や配布資料は授業内容を理解するうえで効果的でしたか。 ① 強くそう思う　② そう思う　③ どちらともいえない　④ そう思わない　⑤ まったくそう思わない	4.08	4.10	4.08	5660	8107	2997	377	176	0
10.	黒板、プロジェクター、添付資料、動画等の使い方は効果的でしたか。 ① 強くそう思う　② そう思う　③ どちらともいえない　④ そう思わない　⑤ まったくそう思わない	4.14	4.16	4.14	6148	8121	2593	302	153	0
11.	各回の提出課題の量はどうでしたか。 ① とても多かった　② やや多かった　③ 適切　④ やや少なかった　⑤ とても少なかった	-.--	-.--	-.--	948	2390	13423	292	264	0
12.	この授業に対する教員の熱意は感じられましたか。 ① 強くそう思う　② そう思う　③ どちらともいえない　④ そう思わない　⑤ まったくそう思わない	4.21	4.25	4.21	6795	7851	2330	222	119	0
13.	授業時間内外における質問への対応は適切でしたか。 ① 強くそう思う　② そう思う　③ どちらともいえない　④ そう思わない　⑤ まったくそう思わない	4.01	4.04	4.01	5241	7528	4192	217	139	0
14.	あなたはこの授業の開講時に示された到達目標を十分に達成したと思いますか。 ① 強くそう思う　② そう思う　③ どちらともいえない　④ そう思わない　⑤ まったくそう思わない	3.98	3.98	3.98	4383	8707	3804	320	103	0
15.	この授業の内容は興味深いものでしたか。 ① 強くそう思う　② そう思う　③ どちらともいえない　④ そう思わない　⑤ まったくそう思わない	4.11	4.14	4.11	5763	8402	2668	332	152	0
16.	この授業の総合評価を5段階で評価してください。 ① とてもよい　② よい　③ どちらともいえない　④ 悪い　⑤ とても悪い	4.15	4.18	4.15	6283	7862	2761	270	141	0
17.	この授業を履修して、自分のためになったことは何ですか。 ① 新しい知識や技能が身に付いた　② 新しいものの見方が身に付いた　③ 関連分野をさらに学びたくなった ④ 問題に対する発見能力や解決能力が身に付いた　⑤ コミュニケーション能力が向上した	-.--	-.--	-.--	13067	7742	5042	3502	2438	726
18.	(担当教員独自設問)	-.--	-.--	-.--	249	232	118	30	21	16667
19.	(担当教員独自設問)	-.--	-.--	-.--	178	159	104	46	24	16806
20.	(担当教員独自設問)	-.--	-.--	-.--	150	122	94	61	23	16867

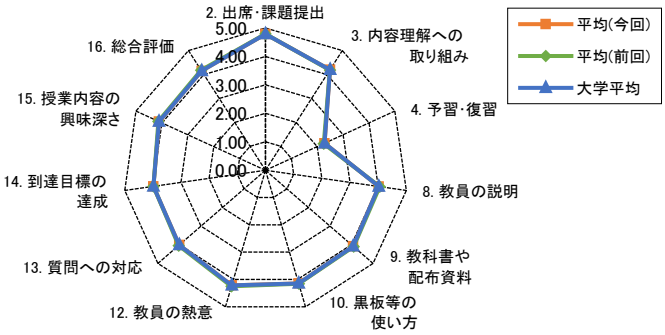
クロス集計(授業参加×総合評価・達成度×総合評価)

クロス集計させる項目	平均(今回)	設問16 総合評価 1	2	3	4	5	無効
3. 積極参加(1・2)	4.26	5994	6912	1570	167	89	0
3. 消極参加(4・5)	3.42	43	97	88	24	22	0
14. 達成度高(1・2)	4.36	5803	6399	773	85	30	0
14. 達成度低(4・5)	3.12	52	122	136	52	61	0

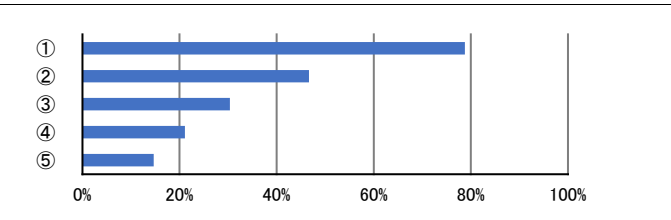
100%横棒グラフ(有効回答のみ集計)



レーダーチャート



Q17. 回答割合(有効回答のみ集計)

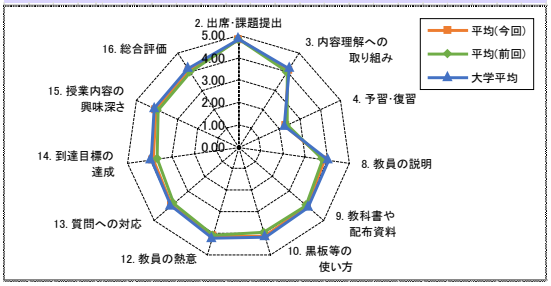


帝京科学大学

◆ 2023 年度前期授業アンケート

【千住】有効回答率　2022 年度 43.0%⇒2023 年度 56.1%

レーダーチャート

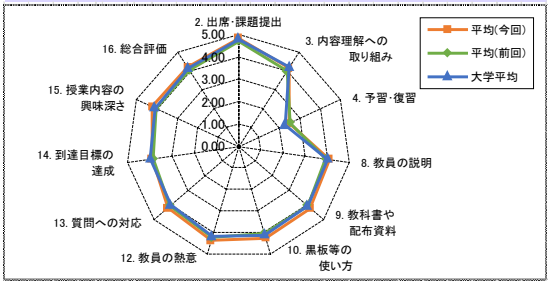


クロス集計(授業参加×総合評価・達成度×総合評価)

クロス集計させる項目	平均(今回)	設問16 総合評価					
		1	2	3	4	5	無効
3. 積極参加(1・2)	4.18	199	315	62	10	3	0
3. 消極参加(4・5)	2.73	1	3	3	0	4	0
14. 達成度高(1・2)	4.26	187	297	31	6	2	0
14. 達成度低(4・5)	2.97	1	12	14	1	7	0

【東京西】有効回答率　2022 年度 53.4%⇒2023 年度 64.1%

レーダーチャート



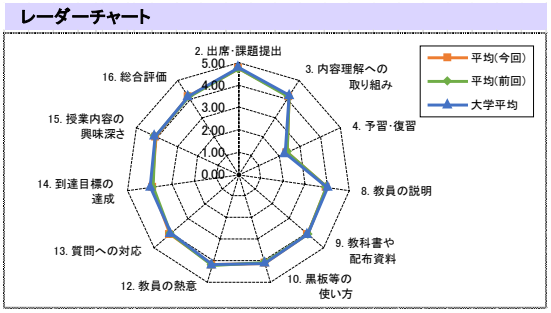
クロス集計(授業参加×総合評価・達成度×総合評価)

クロス集計させる項目	平均(今回)	設問16 総合評価					
		1	2	3	4	5	無効
3. 積極参加(1・2)	4.26	45	71	8	2	0	0
3. 消極参加(4・5)	4.00	1	0	1	0	0	0
14. 達成度高(1・2)	4.36	45	62	5	0	0	0
14. 達成度低(4・5)	3.63	2	3	1	2	0	0

◆ 2023 年度後期授業アンケート

【千住】有効回答率　2022 年度 43.0%⇒2023 年度 60.9%

レーダーチャート

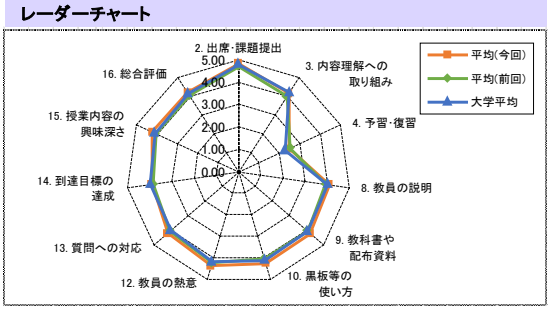


クロス集計(授業参加×総合評価・達成度×総合評価)

クロス集計させる項目	平均(今回)	設問16 総合評価					
		1	2	3	4	5	無効
3. 積極参加(1・2)	4.24	172	232	39	4	5	0
3. 消極参加(4・5)	3.25	0	5	1	1	1	0
14. 達成度高(1・2)	4.33	160	213	18	2	2	0
14. 達成度低(4・5)	3.29	5	9	6	5	3	0

【東京西】有効回答率　2022 年度 43.0%⇒2023 年度 64.1%

レーダーチャート

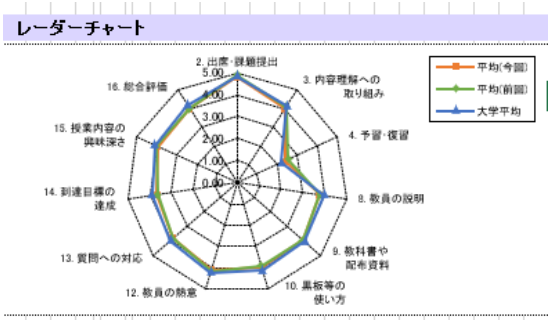


クロス集計(授業参加×総合評価・達成度×総合評価)

クロス集計させる項目	平均(今回)	設問16 総合評価					
		1	2	3	4	5	無効
3. 積極参加(1・2)	4.26	45	71	8	2	0	0
3. 消極参加(4・5)	4.00	1	0	1	0	0	0
14. 達成度高(1・2)	4.36	45	62	5	0	0	0
14. 達成度低(4・5)	3.63	2	3	1	2	0	0

◆ 2022 年度前期授業アンケート

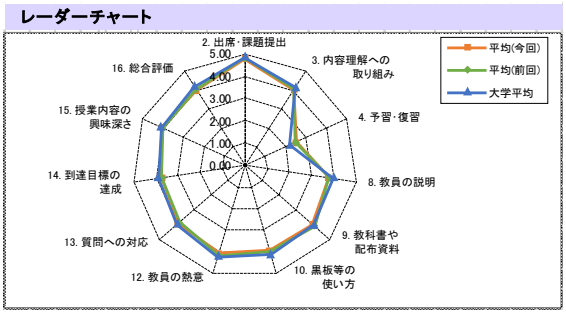
【千住】有効回答率　2021 年度 29.9%⇒2022 年度 43.0%



クロス集計(授業参加×総合評価・達成度×総合評価)

クロス集計させる項目	平均(今回)	設問16 総合評価					
		1	2	3	4	5	無効
3. 積極参加(1・2)	4.12	157	260	67	11	3	0
3. 消極参加(4・5)	3.46	3	9	10	0	2	0
14. 達成度高(1・2)	4.29	147	215	26	3	1	0
14. 達成度低(4・5)	3.27	4	13	18	2	4	0

【東京西】有効回答率　2021 年度 43.9%⇒2022 年度 53.4%

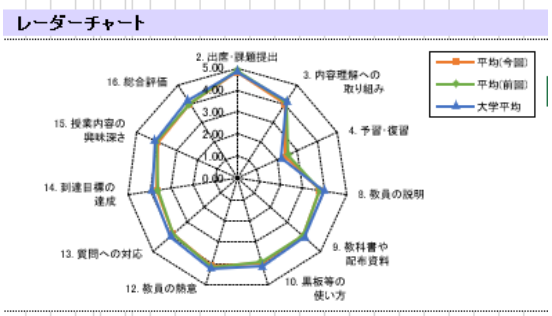


クロス集計(授業参加×総合評価・達成度×総合評価)

クロス集計させる項目	平均(今回)	設問16 総合評価					
		1	2	3	4	5	無効
3. 積極参加(1・2)	4.12	49	74	20	4	1	0
3. 消極参加(4・5)	2.50	0	1	1	1	1	0
14. 達成度高(1・2)	4.26	43	60	9	2	0	0
14. 達成度低(4・5)	2.90	0	5	1	2	2	0

◆ 2022 年度後期授業アンケート

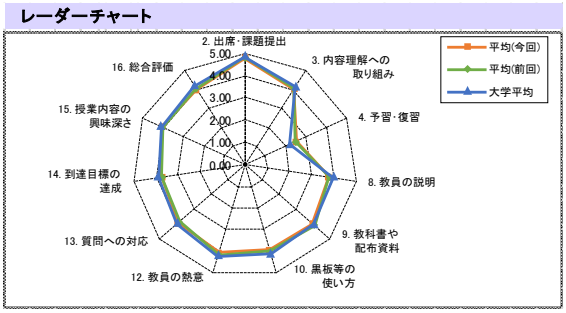
【千住】有効回答率　2021 年度 29.9%⇒2022 年度 43.0%



クロス集計(授業参加×総合評価・達成度×総合評価)

クロス集計させる項目	平均(今回)	設問16 総合評価					
		1	2	3	4	5	無効
3. 積極参加(1・2)	4.12	157	260	67	11	3	0
3. 消極参加(4・5)	3.46	3	9	10	0	2	0
14. 達成度高(1・2)	4.29	147	215	26	3	1	0
14. 達成度低(4・5)	3.27	4	13	18	2	4	0

【東京西】有効回答率　2021 年度 43.9%⇒2022 年度 53.4%



クロス集計(授業参加×総合評価・達成度×総合評価)

クロス集計させる項目	平均(今回)	設問16 総合評価					
		1	2	3	4	5	無効
3. 積極参加(1・2)	4.12	49	74	20	4	1	0
3. 消極参加(4・5)	2.50	0	1	1	1	1	0
14. 達成度高(1・2)	4.26	43	60	9	2	0	0
14. 達成度低(4・5)	2.90	0	5	1	2	2	0

【背景】2022 年度の結果を振り返り比較し 2023 年度の考察を行う。
・「到達目標の達成」、「授業の興味深さ」、「総合評価」ほかすべての項目から判断すると例年レベルの授業の質を維持できたと考える。アンケート結果の信頼度を高めることを目的として，2023 年度では 2022 年度に引き続き回答率の向上を学科内共通認識として取り組んだ。アンケート回答 Web ページ QR コードを教員に周知・メール配布するとともに授業内にアンケート回答の時間を設け、学生に対してアンケートへの積極的な回答を促した。その結果、回答率は千住前期 43.0%⇒56.1%（13.1%向上，前年度 13.2%)、後期 43.0%⇒60.9%(17.9%向上, 前年度 12.5%)、東京西前期 53.4%⇒64.1%(10.7%向上, 前年度 9.5%)、後期 43.0%⇒64.1%（21.1%向上，前年度 14.0%）と，両キャンパスにおいて前後期ともに前年度より回答率向上の効果が認められた。本結果から 2022 年度よりアンケート結果の精度が向上したと考え考察を行った。
【2023 年度アンケート結果より好ましかった考察】
・アンケート設問項目にある「教員説明」「配布資料の適切性」「熱意」「質問対応」など教員側の授業運用に関しては大学平均と比較して，千住キャンパスでは前期・後期ともにほぼ同等の結果であり授業の質は一定の水準にて確保されていたと考えらえる。東京西キャンパスでは前期後期ともに平均値を上回っており，質的向上が確認された。両キャンパスにおいてレーダーチャート上の傾向はほぼ一致しており，この傾向は 2021 年度の結果から変わっていない。このことは，各教員の努力によって授業内容および水準が 3 年間，適切に維持されてきたことを示す結果である。
【2023 年度アンケート結果より課題とされる考察】
・受講人数によって回答率の数値が大幅に増減すること，回答率が数%の科目があることが現状の大きな課題課題の一つであり，改善に向けて対策を実施したい。
・予習・復習にかける時間が低いこと。本学科における値は大学平均と同等であり，本学におい継続的に確認されている問題点と言える。予習・復習を重視する CAP 制度では，教科ごとに予習・復習を 3 時間以上行うことを求めているが，大多数の学生から平均 1 時間未満の学修時間との回答が得られた。尚，授業理解度や課題提出のスコアが低くない授業も多いことから，授業毎に自習時間の配分を調整し学修に取り組んでいることが考えられる。これは，時間内に単元の理解が可能になるような授業内を工夫する等の教員側の工夫と努力によるものと推察される。
【総括】
・アンケート回収率の低い 2022 年度は、回答した学生は授業や教員指導に対し、コンプライアンスの高い学生が多いことを予想し、得られる結果は良い方にバイアスがかかっていることを想定していた。2023 年度ではアンケートの回収率が 10～20%向上しており，教員側の呼びかけが効果的であったこと加えて，学生側のアンケートへの理解と信頼が得られたものと考えている。一般的にはアンケートの回収率が上がると結果は悪い方に傾く傾向にあるが，3 年間にわたって平均 10%回答率向上にも拘わらず結果が大きく変わらなかっ

たことは，授業の質の維持・向上が達成された結果であると考える。今年度は，初めて回答率が 50%以上となったが，半数近くの学生が未回答である。より正確な授業評価を抽出するため今後も回答率の向上に取組むとともに，未回答学生の意見に本質的に重要なニーズ，改善点が隠されていることも考慮し，教員間でアンケート結果を共有し，丁寧な議論・考察を行い，授業運営と学生指導にフィードバックをしたい。また，回収率を上げるための方策として 2024 年度も引き続き授業内アンケートを実施したい。

・2024 年度の分析結果が学生の授業に対する真の評価であることに近づけるためには統計定期に回答率を 80～90%に近づける必要がある。学生の本音が反映されるよう信頼関係の構築のための努力を行うとともに，口頭周知やメールアナウンス、オンライン形式、授業内アンケートに代わる工夫を考案・試行したい。

・学生の学力向上を目的として、2023 年度後期よりリーディングスキルテストと改善プログラムを導入し学修支援を行ってきたが，2024 年度も継続して本プログラムを実施している。結果について，教員間で共有を行い，授業改善に活用したい。

2023 年度授業改善アンケート結果の総括と改善点について

2022 年度と 2023 年度における自然環境学科全体のアンケート結果の比較を行った。

東京西キャンパスにおいて 2023 年度前期・後期は、ほぼ全ての項目で評価（平均点）の向上が見られた。表 1 には予習・復習、内容理解への取り組み、説明の仕方、教員の熱意、内容の興味深さ、についてのデータの抜粋を示している。総合評価も 4.32（前期）、4.43（後期）と高い評価であった（表 3）。予習・復習など授業時間外の学びへの取り組みは依然として十分多くはない状況であり、検討を継続したい。全体としては高い評価（平均点）であり、現在の状況を維持していきたい。

2023 年度前期・後期の千住キャンパスではいずれの項目においても 2022 年度とほぼ同様の評価であったが、項目によっては僅かに平均点の低下が見られた（表 2）。総合評価は 4.15（前期）、4.19（後期）であり昨年と同様であった。一方で東京西キャンパスの結果と比較した場合、0.2 点ほど低い評価となった（表 3）。

自然環境学科は東京西キャンパスと千住キャンパスの両方にあり、原則同じ教員が同じ授業を両キャンパスで実施している。キャンパス間での評価（平均点）が異なる理由を考える必要性については議論中ではあるが、以下に考察のいくつかを記載する。まず千住キャンパスでは東京西キャンパスより履修学生数が多いことが挙げられる。千住キャンパスでは、より多くの学生にも平均して授業の面白さが伝わるよう、工夫・対応が必要であると思われる。また平均点が出されてないアンケート項目に着目すると、例えば「授業を履修した理由」について「③空き時間があったから」という（やや消極的・受動的な）理由で授業を選んだ学生は、東京西キャンパスでは 9〜12%、対して千住キャンパスでは 17〜19%であり、千住キャンパスの方が多かった。そして「授業の難易度」で「適切」を選んだ学生は、東京西キャンパスでは 60〜64%、千住キャンパスでは 57〜59%であり、東京西キャンパスの方が高かった。これらの違いが、キャンパスによって総合評価点に少し差があることにつながっている可能性が考えられ、今後も着目をしていきたい。現状のアンケート回答率も決して低いことはないが、より正確な傾向の把握のために、回答率をさらに上げることができるよう各授業での学生への呼びかけも強めていきたい。

表１．東京西キャンパスの結果比較（太字はアップした項目）

	前期		後期	
	2022	2023	2022	2023
予習・復習*	2.35	**2.46**	2.32	**2.49**
内容理解への取り組み	4.07	**4.20**	4.09	**4.24**
教員の説明の仕方	4.14	**4.23**	4.13	**4.36**
教員の熱意	4.40	**4.44**	4.30	**4.47**
授業内容の興味深さ	4.27	**4.31**	4.25	**4.39**

＊：3.0＝平均１時間

表２．千住キャンパスの結果比較（太字はアップした項目）

	前期		後期	
	2022	2023	2022	2023
予習・復習*	2.13	**2.19**	2.23	**2.27**
内容理解への取り組み	4.01	**4.04**	4.07	**4.11**
教員の説明の仕方	3.99	**4.03**	4.10	4.10
教員の熱意	4.26	4.17	4.27	4.24
授業内容の興味深さ	4.13	4.10	4.23	4.14

*：3.0＝平均１時間

表３．総合評価の結果比較（太字はアップした項目）

	東京西キャンパス		千住キャンパス	
	2022	2023	2022	2023
前期	4.30	**4.32**	4.16	4.15
後期	4.25	**4.43**	4.25	4.19

2023 年度授業改善アンケート振り返り

【総括】

大学全体との比較で平均値に 0.10 以上の差が出た項目としては、千住は前期の「積極的な取り組み」「予習・復習」と後期の「積極的な取り組み」「到達目標の達成」が低く、東京西は前期の「積極的な取り組み」と後期の「積極的な取り組み」「予習・復習」が低く、「黒板等の使い方」「教員の熱意」「授業の興味深さ」「総合評価」と後期の「教員の説明」「黒板等の使い方」「教員の熱意」「授業の興味深さ」「総合評価」が高かった。総じて、両キャンパスともに「積極的な取り組み」が低い一方で、東京西では授業そのものの評価が高いことは、大人数講義が中心であるため個々の学生は受け身に留まりがちであることが示唆される。なお、回答率については、千住・東京西両キャンパスともに大学全体よりも低い状況が続いている。

【今後に向けての改善策】

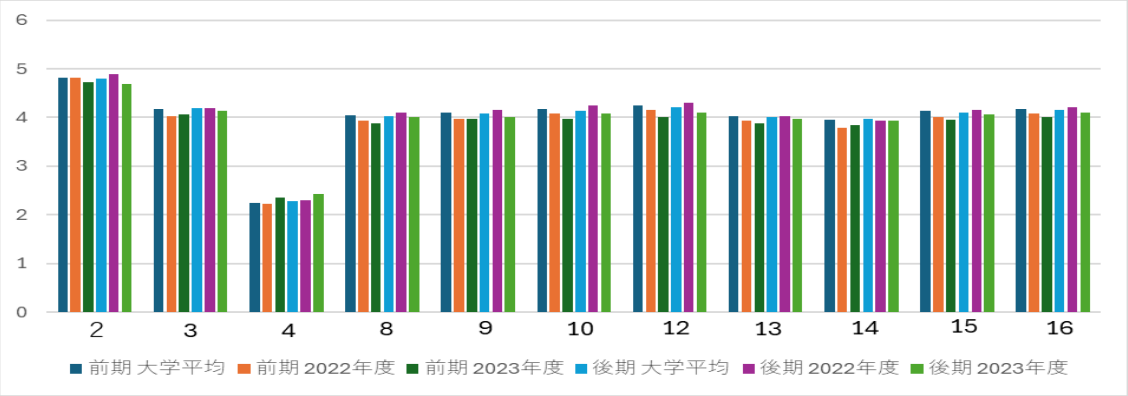
大学全体との差異は、学科の人数という構造的な原因によるところが大きいと思われるので、実習科目を中心として学生の積極的な取り組みを引き出しつつ、講義科目においてもアクティブラーニングの一層の導入を進めたい。特に千住キャンパスでは 4 年次に愛玩動物看護師の国家試験が実施されるため、その対策の一つとして低学年のうちから「積極的な取り組み」「予習・復習」を習慣づけるような指導を目指す。また、回答率が低い授業を中心に、回答時間を授業時間中に確保するなどの対策を行い、回答率の向上に努めたい。

理学療法学科 2023 年度授業改善アンケートの学科振り返り

1. 2023 年度前期・後期授業改善アンケート回答率

2023 年度における授業アンケート実施の結果、回答率は前期：78.7%、後期：73.8%であった。2023 年度から授業アンケートの実施については、当該授業時間内にての実施とは別に、各学年担当教員らによって学年別に学生への授業アンケート実施機会を特別に設け、学生への授業アンケートへの着手を促すようにした。そのため、2022 年度と 2023 年度の結果を比較すると、回答率が著しく低い科目数を減少させることができたと考える。

2. 2022-2023 年度 理学療法学科 授業改善アンケート結果と分析



項目	アンケート内容	前期			後期		
		大学平均	2022年度	2023年度	大学平均	2022年度	2023年度
2	あなたはこの授業にどの程度出席または課題提出しましたか。	4.82	4.82	4.72	4.79	4.90	4.69
3	あなたは授業内容を理解するため積極的に取り組んだと思いますか。	4.18	4.02	4.06	4.20	4.19	4.13
4	1回の授業につき、あなたは予習・復習を平均してどのくらいしましたか。	2.24	2.22	2.36	2.28	2.30	2.43
8	教員の説明の仕方はわかりやすいものでしたか。	4.05	3.93	3.88	4.02	4.11	4.01
9	教科書や配布資料は授業内容を理解するうえで効果的でしたか。	4.10	3.98	3.97	4.08	4.16	4.00
10	黒板、プロジェクター、添付資料、動画等の使い方は効果的でしたか。	4.17	4.09	3.97	4.14	4.25	4.08
12	この授業に対する教員の熱意は感じられましたか。	4.24	4.15	4.01	4.21	4.30	4.10
13	授業時間内外における質問への対応は適切でしたか。	4.03	3.93	3.88	4.01	4.03	3.97
14	あなたはこの授業の開講時に示された到達目標を十分に達成したと思いますか。	3.95	3.78	3.84	3.98	3.94	3.94
15	この授業の内容は興味深いものでしたか。	4.14	4.01	3.95	4.11	4.15	4.06
16	この授業の総合評価を5段階で評価してください。	4.18	4.09	4.00	4.15	4.22	4.10

2023 年度の「学科」と「大学平均」の平均値の差は，前期においては平均 0.13 ポイント、後期においては平均 0.04 ポイントであった。前後期ともに大学平均を大きく上回るもしくは下回る項目は少なかった。また、学科内での結果においては、2022-2023 年度前期の差が平均 0.03 ポイント、後期の差は平均 0.09 ポイントであった。このことから、2023 年度においても授業における教育の質は昨年度と同一水準のものを提供できていたと考える。

（1）前後期平均値の変化が 0.1 ポイント未満の項目について

2022-2023 年度の授業アンケート結果において、前後期平均 4.0 ポイントを超える高値を示す項目の多くは変化が見られなかったものと考えられる。授業内容を理解するための積極的な取り組みへの学生自身による自己評価や、教員対応評価などは学習指導の重要な項

目であるため，今後も高値となるように学生指導、教員の授業方法などの振り返りなどを継続する必要性を学科内にて共有することが求められると考える。

（２）前後期ともに平均値が 0.1 ポイント以上の変化があった項目

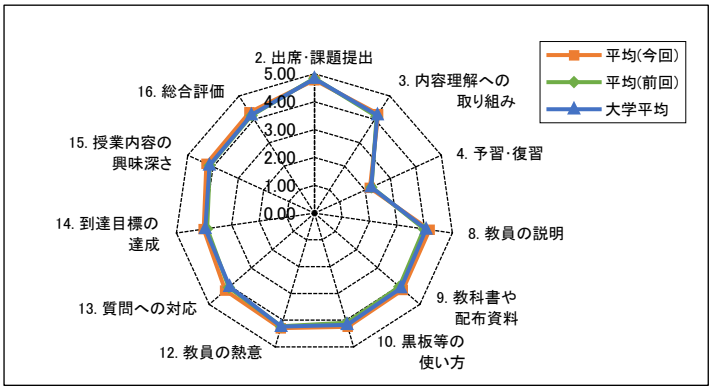
項目 2 ならびに 10 に関しては、前後期ともに平均ポイントの減少が認められた。特に、項目 2 においては後期において前年度との差が 0.21 ポイントとなっていた。授業への出席や課題提出については、学習に取り組む姿勢の基本となる。そのため、学科では多欠者がでないよう日頃から担当教員と学生助言教員とが授業出席状況を共有し、学生指導ができるようにする取り組みを行っている。引き続き、学科教員における協力体制を整えていく重要性が示唆された。

3. 今後に向けた理学療法学科の改善策

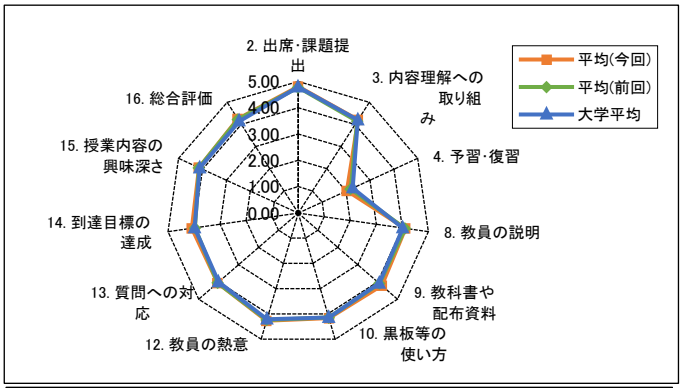
2023 年度は授業環境のさらなる改善に取り組み、一定の成果は得られたと考える。引き続き、授業改善アンケートに寄せられた学生の声に真摯に向き合い、参考とし、よりよい授業が提供できるように学科として取り組んでいきたい。

2023 年度授業改善アンケートの学科振り返り

【総括】



2023 年度　前期



2023 年度　後期

2022 年度と比較して、2023 年度のアンケート結果は、多くの項目でわずかに改善が見られた。回答率は前期 63.6%（2022 年　40.2%）、後期 59.0%（2022 年　54.1%）だった。回答率も 2023 年度は改善がみられた。

具体的には、「授業内容を理解するための積極的な取り組み」、「予習・復習の時間」、「黒板、プロジェクター、添付資料、動画等の使い方が効果的だったか」、「教員の熱意」、「到達目標の達成」、「授業の総合評価」の設問で、前期・後期ともに改善が見られた。

2023 年度の 1 つ目の課題であった回答率の低さは、授業時間内に QR コードを提示し、可能な限り教室で回答してもらう取り組みをした結果、前期 2022 年度は 40.2%から 2023 年度 63.6%は大きく上昇した。それでも回答率は前期・後期 6 割程度であり引き続き改善を目指す必要がある。

2 つ目の課題であった予習・復習の時間の少なさについては、①予習・復習の内容や方法について提示する。②専門教室の貸出手続きについて今まで以上に周知し、空き時間を有効に活用することで予習復習の時間を確保することを促す。という 2 つの取り組みを続けたが、項目 4 の予習･復習では前後期ともに 2022 年度前期平均 2.25、2023 年度前期平均 2.19 へ、2022 年度後期平均 2.25 から 2023 年度後期平均 2.03 と前年を下回る結果となった。

3 つ目の課題であった到達目標の達成については、①初回の授業や毎回の講義の中で明確化する。②授業内容の理解度を確認しながら、必要な学生には補習をすることで、すべての学生が到達目標を達成することを目指す。という 2 つの取り組みを行い、到達目標（項目 14）を達成したと思うという回答の割合が 2022 年度前期 3.85 から 2023 年度前期 4.01 へ、2022 年度後期 3.97 から 2023 年度後期 4.09 とともに上昇した。

【改善策】

■回答率について

→すべての科目で授業中に QR コードを提示し、可能な限り教室で回答してもらう取り組みを継続する。

■予習・復習の平均時間が少なかったことについて

→これまでの取り組みをしてきたが、2022 年度を下回る結果となったため、同様の取り組みを継続する。具体的には、授業時間外の学習として何をするべきかわからない学生のために、予習・復習については自主性に任せるだけではなく、こういうことは調べた方がよい、覚えておいた方がよい等、予習・復習の内容や方法についても提示する。 作業療法学科教員室には、専門教室や検査器具などの貸し出し申請用紙（ファイル）があり、申し出があれば個人でもグループでも借りることができることを、引き続き周知し、空き時間を有効に活用することで予習復習の時間を確保することを促す。

■到達目標を十分に達成してしたと思うかについて

→2023 年度は前年度より前後期とも上昇した。引き続き初回の授業や毎回の講義の中で到達目標を明確化する取り組みを続ける。また、、授業内容の理解度を確認しながら、必要な学生には補習をすることで、すべての学生が到達目標を達成することを目指す。

2023 年度・授業改善アンケート　学科振り返り

【総括】

①前期

大学平均と比較できる 11 項目のうち、すべての項目で大学平均を上回り、学科比較では 10 項目で昨年度より微増していた。しかし、アンケート回答率が 43.3%と低かったため、正確な状況が十分に把握できていない可能性がある。

項目「1 回の授業につき、あなたは予習・復習を平均してどのくらいしましたか。」では、最も平均が低く、2.37(昨年度学科平均 2.23、大学平均 2.24)であった(表 1)。これは、毎日の授業だけで疲労困憊している可能性、下校後や週末のアルバイトで時間を使ってしまい、予習や復習に充てる時間が不足している可能性、モチベーションの低下などが推測される。

一方、項目「あなたはこの授業にどの程度出席または課題提出しましたか。」では最も平均が高く、4.88(同 4.89、同 4.82)であった。昨年度より微減したものの、総じて提出物の期限を厳守する、授業を欠席しないという基本的な振る舞いに関しては出来ているように見られる。しかし、無断欠席や課題提出の遅れや未提出者が一部に見受けられる現状と低いアンケートの回答率を考慮すると、問題のある学生の意見が反映されていない可能性がある。「授業の欠席が多い・提出物の遅れや未提出が多い学生」は概して成績が低く、退学や休学に至る学生が多い印象があるため、具体的な対策を講じる必要がある。

表1.　授業改善アンケート(2023)の結果＊抜粋

【前期】

	項目	大学平均(2023)	学科平均(2023)	学科平均(2022)
高得点	授業の出席と課題の提出	4.82	4.88	4.89
低得点	予習・復習の時間	2.24	2.37	2.23

②後期

大学平均と比較できる 11 項目のうち、10 項目で大学平均を上回り、学科比較では 10 項目で昨年度より微増していた。しかし、アンケート回答率が低いため、正確な状況が十分に把握できていない可能性がある。

項目「1 回の授業につき、あなたは予習・復習を平均してどのくらいしましたか。」では、最も平均が低く、2.52(昨年度学科平均 1.97、大学平均 2.28)であった。昨年度より微増したものの、前期と同様、低い結果であった(表 2)。

項目「あなたはこの授業にどの程度出席または課題提出しましたか。」では、最も平均が高く、4.73(同 4.88、同 4.79)で前期と比較して低下しており、後期になると授業への出席意欲と課題提出が低下する傾向がみられた。

表2.　授業改善アンケート(2023)の結果＊抜粋

【後期】

	項目	大学平均(2023)	学科平均(2023)	学科平均(2022)
高得点	授業の出席と課題の提出	4.79	4.73	4.88
低得点	予習・復習の時間	2.28	2.52	1.97

③その他

「この授業の総合評価を 5 段階で評価してください。」は前・後期とも 4.41(同 4.06、同 4.18)と授業に対する満足度は比較的高い傾向が伺えるが、アンケート未回答の学生の考えが不明なため、楽観できない。教員は引き続き熱意をもって授業を行い、学生の興味を掘り起こし、理解を促し、支援を惜しまない教育を目ざして努力と改善を重ねる必要がある。

【対策】

1. アンケートの回答率を高め、正確なデータを得ることは今後の授業改善に大いに役立つ。あらためてアンケートの実施方法を検討・改善し、アンケートに協力してもらうよう、教員と学生への周知を徹底していく。
2. 今後、学科独自でアルバイト就労率や就労時間等について調査をおこない、学習時間不足との関連性について検討し、予習や復習に充てる時間の増加対策を図りたい。
3. PDCA 等を用いて授業の改善を積み重ね、教育力の向上を図る。教員は自ら熱意を表出し、学生を導きつつ、学生の自発的な学習意欲を引き出し、自己学習の習慣が身につけられるよう支援していく。

以上

2023 年度　授業改善アンケート結果について

東京理学療法学科

【総括】

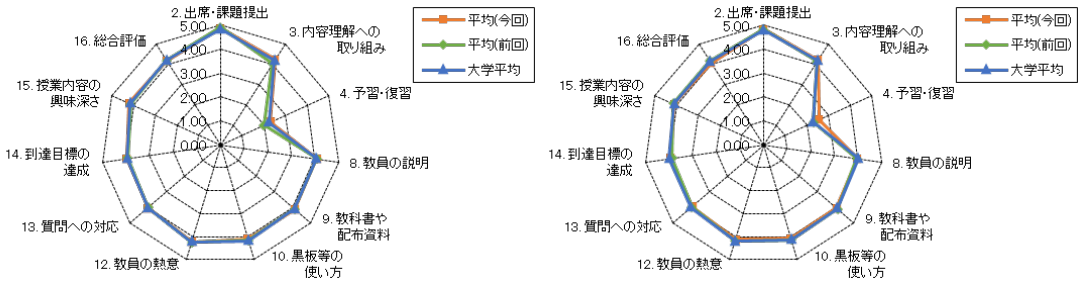


図　授業改善アンケート結果集計　レーダーチャート（左図：前期　右図：後期）

■授業方法について

[良かった点]

- アンケート全体の回収率が昨年度よりは改善されたが、[前期 63.2%　後期 53.0%（2023 年）→前期 34.2%　後期 44.2%（2022 年）]未だ低調な結果であった。この点を改善するために、対象科目における講義内の周知やアンケート実施など積極的にアンケートを実施しやすい環境を設定する。
- 前期科目は全般的に昨年度より得点が微増し、なかでも「授業内容を理解するため積極的に取り組んだ」[4.03（2022 年）→4.24（2023 年）]など、授業内課題の取り組みなどに伴い、改善が見込まれた。
- 「総合評価」とする満足度は、昨年度に引き続き、前期 4.18、後期 4.08 と高い水準が維持され、さらに実践的な授業を展開し、専門性を活かした学修機会を提供していく。

[改善点]

- 後期科目は、全般的に昨年度よりポイントが微減し、「教員の説明の仕方はわかりやすいものか」[3.96（2022 年）→3.96（2023 年）]、「この授業に対する教員の熱意は感じられたか」[4.18（2022 年）→4.11（2023 年）]などの項目で大学平均よりも低値を示しているため、引き続き、教員側の教育手法に改善が求められることが見受けられた。
- 「1 回の授業につき、あなたは予習・復習を平均してどのくらいしたのか」について、後期科目にやや改善されているものの、「30 分以下または全くしていない」が半数以上を占めている。そのため、授業内・外における実技練習のサポートや学習の理解度に応じた提示できる課題など自己学習の機会も取り入れ、基礎科目から専門職教育の質を向上させる取り組みを検討していく。

■授業環境について

[良かった点]

・　「黒板、プロジェクター、添付資料、動画等の使い方は効果的」は［4.16（2022 年）→4.10（2023 年)］との回答が得られ、高値を示すが、Web class へのデジタル資料を積極的に提供する機会が増えた点も効果があったものと考えられるため、引き続き対応していく。

[改善点]

・　「授業時間内外における質問への対応は適切か」については、前年度と比較して低水準の数値となっており（特に後期科目）［3.98（2022 年）→3.94（2023 年)］、質問の持てる工夫と質問に対する適切な指導の工夫として、引き続き、取り組んでいく。

■今後に向けた改善策

[科目に対する意見について]

・　各教科とも授業内容をより理解しやすくするため、視覚教材や配布物など学習ツールの活用を今まで以上に進めていきます。

・　学生は、専門知識の理解をすすめていくために、下記の自己学習の方法について、確認してほしい。

①「理解不足の原因」のひとつとして「自己学習時間の不足」も一因となり、「授業の理解度」の不十分な学生が一部見受けられます。教科書や授業資料のみならず、大学の図書館などの学内施設を利用し、予習・復習など積極的な自己学習に取り組める環境を整えて下さい。

②「理解不足の原因」を抱える多くの学生からは、「勉強の仕方がわからない」、「専門用語が難しい」という声が聞かれます。授業内容はわからないままにせず、助言教員や科目担当教員などに積極的に相談し、まずは、勉強の習慣や仕方を身に付けてください。

③シラバスに記載されている「授業における到達目標」を確認した上で、興味がある分野には積極的に取り組んでください。特に、理解度の低い授業は放置せず、担当教員との関わりを持って、簡単なことでも構いませんので、相談する姿勢を身に付けてください。

[授業の進行について]

・　各科目における授業の進行について、授業内の学修内容が理解されやすいように適切な板書やスライド、資料提示などに取り組んでいく。

・　また、必要に応じて、Web・アプリでの課題、リフレクションシートなどの活用も適宜導入していく。

・　学生は、自身の課題提出や授業外学修が円滑な授業進行に役立つため、下記の点につい

て、確認してほしい。

①課題レポートなどの提出物は、期限を厳守し指示された体裁に則り提出してください。

②休み時間や授業の空き時間に実習室利用（授業で使用していない場合）を可能としているため、積極的に理学療法技術（実技）の練習に取り組んでください。

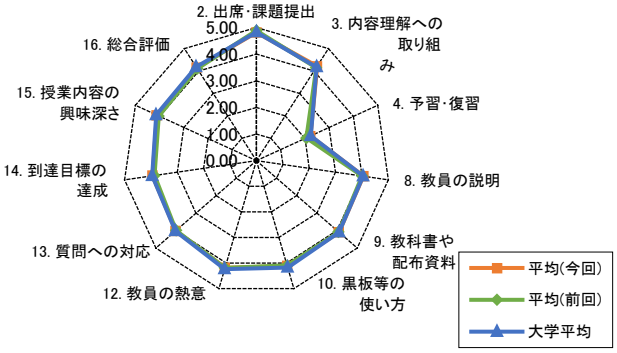
③少しずつ学習面に対する相談する学生が増えてきましたが、質問や意見など、学科教員が随時受け付けていますので、遠慮せずに声を掛けてください。

以 上

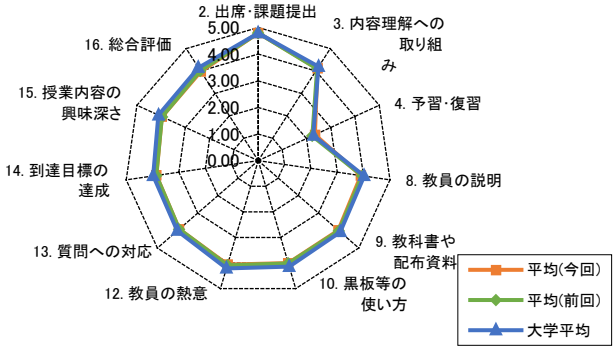
2023 年度授業改善アンケート結果に対する学科の振り返り

東京柔道整復学科

【2023 年度前期】



【2023 年度後期】



【総括】

2023 年度の授業改善アンケート結果は，前期 9 項目「授業内容を理解するための積極的な取り組み」，「予習・復習の平均時間」，「教員の説明の仕方」，「教科書や配布資料」，「黒板、プロジェクター、添付資料、動画等の使い方」，「質問への対応」，「到達目標の達成度」，「授業内容の興味深さ」，「授業の総合評価」，後期 2 項目「授業内容を理解するための積極的な取り組み」，「予習・復習の平均時間」で 2022 年度より高い値となった。一方，低い値となったのは前期 1 項目「授業への出席または課題提出」，後期 4 項目「教員の説明の仕方」，「教科書や配布資料」，「教員の熱意」，「授業の総合評価」であった。

2023 年度は，「授業内容を理解するための積極的な取り組み」，「予習・復習の平均時間」の項目が 2022 年度に比べて前期・後期で上回っていた。「予習・復習の平均時間」をみると，2022 年度「全くしていない」と回答した学生が前期は全体の約 33%，後期は約 30%であったが，2023 年度前期では全体の約 26%，後期は約 28%と減少し，予習・復習を行う学生がわずかではあるが増加している。特に 2 時間（2022 年度前期が全体の約 4%→2023 年度約 4.8%，2022 年度後期が全体の 6.6%→2023 年度約 9.4%）と 1 時間（2022 年度前期が全体の約 25%→2023 年度約 31%，2022 年度後期が全体の 27%→2023 年度約 28%）で増加傾向が見られた。学生の予習・復習時間については，毎年の PDCA サイクルで改善を目標に設定し，普段の授業やアドバンスセミナーなどでも予習・復習を行うように促していることも今回の結果につながったと考えられる。

2023 年度前期に 2022 年度前期より低い値となった「授業への出席・課題提出」については，低学年（1 年・2 年）において授業を欠席する学生が多く見受けられる。資格取得へのモチベーションの維持・向上も含めて改善策を考える必要がある。

【今後の改善について】

■授業への出席・課題提出については科目担当教員や助言教員と情報共有を行いながら授業への出席を促していく。また，授業の内容についても学生の積極性を促す授業を行うように努める。

■予習・復習時間の確保については引き続き授業時間以外の学習の必要性を説明し，習慣づけを促していく。

■改善がみられた項目は学生の理解度を高めるようさらに工夫をして授業を行うなど，良い評価につながるように努めていく。

2023 年度　授業改善アンケート結果のまとめ

○レーダーチャート

前期は 54 科目の回答率 31.9%（2022 年度 23.0%）、後期は 30 科目の回答率 53.9%（2022 年度 39.9%）に対して授業改善アンケートが実施された。レーダーチャート(図 1、2)をみると、前期後期で大きな変化はなく、多くの項目で得点は大学平均と同等であり，予習・復習に関しては大学平均を上回ったが、2022 年度よりやや低下していた。

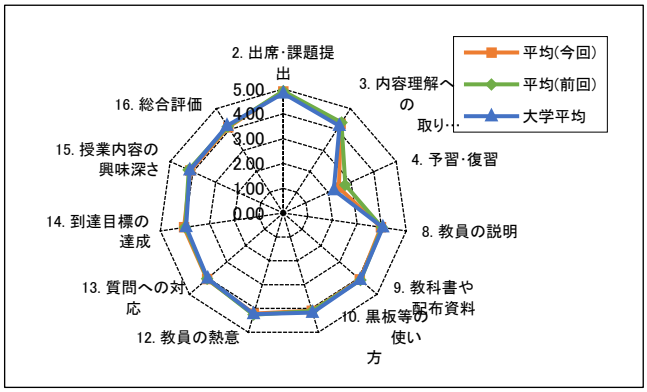


図 1.　前期アンケート結果レーダーチャート

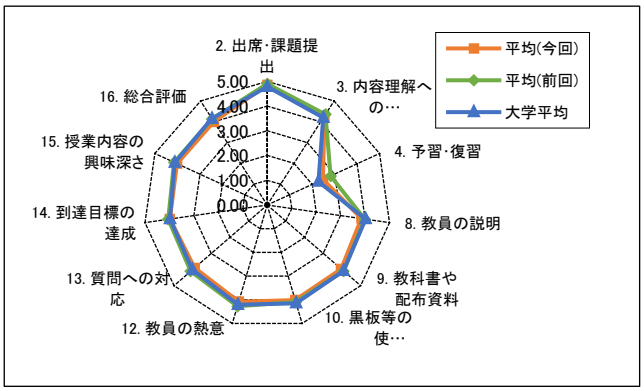


図 2.　後期アンケート結果レーダーチャート

○自由回答

【肯定意見の例】

「最後に重要なポイントを教えてもらえたので、どのように勉強したらよいかよく分かった」

「丁寧に聞こえやすく授業をしてくれた。」

「質問に丁寧に答えてくれたり、説明してくれた」

「ライングループで、匿名で発言できるところはみんなで授業を行っている感じがしてとても良かった」

「説明とスライドが分かりやすかった。大事なところを丁寧に教えてくれた」

「教員の熱意があり、授業も面白かった」

「ゲストの先生のお話が聞けたことはとても良かった」

「毎時間の試験問題が国家試験の事例問題の形式で、解説も丁寧にしてくれた。」

「グループ課題を行ったことで他者の意見が聞けて良かった。自分も発言するため考えもまとまった」

「課題を提出する前に教員に内容を確認してもらったところ、丁寧に分かりやすく教えて頂いた。」

「リアクションペーパーを通して把握した学生の興味関心のある分野が講義に取り上げられていたので、理解を深められたし嬉しかった」

「先生自身の体験談などを交えて講義をしてくれたのでイメージを想像することができた」

「知りたいことや興味関心のあることを熱心に話してくださるので、とっても楽しく新しい知識を身につけることができた」

「外部の先生を呼んだり、みんなでディスカッションをしたことで学びが深まった」

「学生の要望を取り入れてレジュメを変えてくださり、とても授業が受けやすかった」

「動画を活用してもらえて分かりやすかった」

など、上記以外にも多数の肯定意見がアンケートに記載されていた。

［是正意見の例］

「授業スピードが速すぎて何がなんなのかわからない。」
「リアクションペーパーの量が多すぎる。」
「課題量が多い。授業の進行速度が速い。」
「演習内容やテスト日程など、早く連絡して欲しい。」
「小テストは公平性のために全員同じ日に行うべきだと思った。」
「グループワークで理解が深まる利点はあるが、人任せな人がいるので真面目にやった人がそのような人と同じ評価になるのは納得できない。」
「看護過程の課題に関して、全体へのフィードバックはあったが１人１人へのコメントがなかった。」
「課題提出の期限が早すぎる。」
「授業時間内で終わらないと、後半が早口になるので分からない」
「先生方の求めている内容が曖昧で分かりにくかったので、（教員間で）確認をお願いしたい」
などの是正意見がアンケートに記載されていた。

〇授業改善アンケート結果からの考察

・レーダーチャートから予習・復習が低くなっているが、課題が多いためと推測でき、予習・復習ではないが授業以外でも学修していることがうかがえる。
・教員が熱意をもって授業を行うことで、学生の関心や理解も深まる。
・授業速度に注意して、学生の反応を確認しながら丁寧に授業を進めると理解しやすい。
・教員の臨床経験をふまえた授業内容は実際の場面を想像しやすく、学生の興味や関心を高めるとともに、理解も高まる。
・匿名で発言することに楽しさを感じているようなので、IT 技術を活用して発言できる場を積極的に設けていくことで主体的な学修に繋がると考えられる。
・学生がイメージしやすいように動画等，視覚教材を用いると、理解しやすく興味や関心を持って学修できる。
・授業回ごとのリアクションペーパーで記載された要望について、速やかに対応することで学生の満足度があがり、学習意欲の向上につながる。
・授業中の質問や授業後の質問など、教員と学生との間でコミュニケーションを図ることが、より良い学修につながっている。
・教員間の指導の差や、情報共有不足などに対して、学生が不満を感じているため、担当教員間での事前打ち合わせを密にしておくことが必要である。
・グループワークでの評価に関する基準等、学生が納得できるものを検討する必要がある。
・課題を前向きに実施している学生がいる一方で、課題の量や提出期限を負担に感じている学生がいることから，課題内容や量を検討することと，負担に感じている学生を把握してサポートをする必要がある。

以上

1.　2023年度，前期・後期授業改善アンケート結果

「大学平均」「学科前回（2022 年度）平均」「学科今回（2023 年度）平均」を，表1にまとめた。

2022 年度，「大学平均」より低かったのが前期 6 項目，後期 1 項目あった。2023 年度は，前期 2 項目，後期 1 項目であり，改善があったと評価できる。また前年度は大学の平均より低かった項目 2「予習・復習」が前期・後期ともに改善している点は評価できる。

一方，2022 年度と比較し、平均が低かった項目は前期 10 項目，後期 3 項目である。また，大学平均より低かった項目 2「課題提出」は前年度も大学平均より低いため課題としていた。そのため，課題提出が低くなる要因（学生の課題取り組み状況や課題提出の周知に関する課題）を分析し，それに合わせた具体的な対応が必要であると考える。また，項目 16「総合評価」は授業全体に関わる項目である。2022 年度と比較し，平均が低い項目も多いため，授業の全体的な見直しも検討する必要があると考える。

表1　2023 年度　授業改善アンケート結果分析（医療福祉学科）

設　問		＜2023年度前期＞ 大学平均	＜2023年度前期＞ 平均（前回）	＜2023年度前期＞ 平均（今回）	＜2023年度後期＞ 大学平均	＜2023年度後期＞ 平均（前回）	＜2023年度後期＞ 平均（今回）
2.	あなたはこの授業にどの程度出席または課題提出しましたか。	4.82	4.83	4.82	4.79	4.80	4.77
3.	あなたは授業内容を理解するため積極的に取り組んだと思いますか。	4.18	4.31	4.24	4.20	4.34	4.35
4.	1回の授業につき、あなたは予習・復習を平均してどのくらいしましたか。	2.24	2.49	2.42	2.28	2.59	2.59
8.	教員の説明の仕方はわかりやすいものでしたか。	4.05	4.11	4.06	4.02	4.13	4.16
9.	教科書や配布資料は授業内容を理解するうえで効果的でしたか。	4.10	4.15	4.14	4.08	4.17	4.19
10.	黒板、プロジェクター、添付資料、動画等の使い方は効果的でしたか。	4.17	4.24	4.18	4.14	4.26	4.24
12.	この授業に対する教員の熱意は感じられましたか。	4.24	4.28	4.25	4.21	4.30	4.30
13.	授業時間内外における質問への対応は適切でしたか。	4.03	4.11	4.10	4.01	4.17	4.17
14.	あなたはこの授業の開講時に示された到達目標を十分に達成したと思いますか。	3.95	4.02	3.99	3.98	4.10	4.14
15.	この授業の内容は興味深いものでしたか。	4.14	4.22	4.13	4.11	4.20	4.23
16.	この授業の総合評価を5段階で評価してください。	4.18	4.26	4.17	4.15	4.25	4.22

＊項目1，5，6，7，11，17は学科全体の結果集計データなし

＊黄色マークが大学平均より低い項目

2.　今後の課題

医療福祉学科では，FD 活動における「学修支援 PDCA サイクル」の中で，「低学力や学習習慣が身についていない学生，学力二極化への対応」「学生にとって魅力的な授業」を挙げて取り組んでいる。授業アンケートで学生の学修状況に関する「項目 15」「項目 16」は，上記課題に関連すると考える。これらの項目は，前年平均と比較しても低下している。そのため，「学習支援 PDCA サイクル」にも挙げた，「各教員がディプロマポリシーを踏まえた授業内容、教授方法を検討する」「キャリア形成・スキルアップを志望する目標意識の高い学生のニーズに合った授業の実施する」について，各教員が授業内容に合わせて検討・実施していく必要がある。

令和５年度　授業改善アンケート振り返り

【はじめに】

コロナ禍の厳しい状況を脱して対面授業の全面再開 2 年目を迎え、依然として厳格な感染対策がなされ、一部でオンライン授業も併用される中で、学科が提供する授業は平常な授業運営に復した。一方で受け手の学生達は大学入学時から全面オンライン授業へ移行した 4 年次生から、平常の授業を入学時より受講できている 1 年次生まで、大学の授業体験に学年毎に大きなちがいが生じている。実技系科目の多い当学科において、各教員はコロナ禍 3 年間に得た様々な形態の授業を行った経験を、対面授業に全面的に復した今年度においても各学年のこうした特性に対応しながら生かし続け、より良い教育、より高い学習効果の達成を目指した。

その結果が今年度授業改善アンケートの結果にも表れ、前期・後期とも全体的に前回結果と同程度か上回り、これまでのウイークポイントであった自宅での予習・複数ポイントは前後期共に増加した（下図）。これはオンライン授業や課題型授業において如何に受講者の学習効果を上げるかの工夫の積み重ね

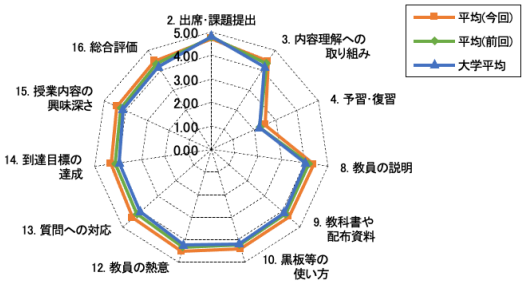


図１　前期の全体結果

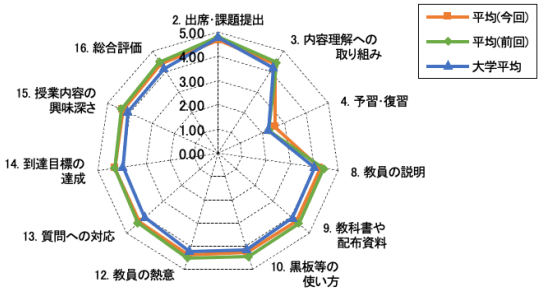


図２　後期の全体結果

の結果が現在まで生かされていると考える。しかし、依然として「予習・復習」が他項目と比べて低ポイントであることに変わりはないため、今回の結果を受けてさらにこの点の改善を進めていきたい。

演習科目（授業内実施の時間が確保しにくい）や実習科目（事後指導が実習本体を挟んで学期をまたぎ、学期前半で終了するため）では、アンケート実施時期と授業終了時期がうまく合わずにこれまで低回答率に甘んじてきたが、今回は授業内や科目担当教員、あるいは助言教員を通じての繰り返し回答催促によりわずかだが改善傾向が認められた。今後もこうした対応を積極的に進めていきたい。

【個別の振り返り】

今期の授業結果と今後に向けた方針について

（授業方法の工夫）

・実習前後で、専門科目で扱う内容への興味や学習による知識の習得（深まり）度が異なる。学修意欲をどう高めて実践（実習）のための（役立つ）知識の習得へ導くかを工夫していきたい。

・配布資料は重要な専門用語を記入する穴埋め式にし、授業中は説明を聞きながら常に手を動かすようにして積極的に授業に参加できるようにしたい。
・保育士、幼稚園・小学校教諭に向けて、早期に「他者の前で話す＆発表する」、「伝え合う＆表現を見合う」という体験が必要である。いろいろな科目でこのような授業展開を積極的に導入していきたい。
・聴講で集中力を維持するために、学生交流（グループ活動等）の機会を定期的に取り入れていきたい。
・実技系科目では図画工作等の好き嫌いにより個人差があるが、全体的に取り組み姿勢はとても良く、積極的に授業に参加していた。
・黒板、プロジェクター、添付資料、動画等の活用について：より良い受講環境実現のために、より効果的な活用方法をさらに検討していきたい。
・授業に関する連絡、課題、教材を授業内の提示・口頭説明や紙媒体資料配布だけでなく、CampusSquare や WebClass を積極的に使用し、共有すべき情報を明確にしていつでもオンラインで入手・確認できるようにした。これにより情報の周知が徹底できたので、授業運営が円滑になった。今後も継続していきたい。

（予習・復習について）
・理解を深めるための予習・復習用課題（グループ調査や模擬授業の準備、ノートの見直しやまとめ、アイデアスケッチや資料作成等）を多く設けた。
・調べ物学習、プレゼンテーション資料作成を課した。１コマが自学自習を含めて 4 時間の学習時間になるよう構成した。
・以上の取り組みでポイントが上がり改善が見られたので、今後も継続していきたい。
・自学自習を含めて１コマ４時間の学習をすることが単位修得の要件であることを周知することが必要
・実験授業は毎回、実験レポートを課したが全員漏れなく提出できた。良く努力したと言える。

（連携）
・科目横断的な科目間連携を進めていきたい。小学校では教科教育法、幼稚園では５領域各内容の関連性や模擬授業の実施方法について情報共有していきたい（指導案フォーマット、模擬授業形式等）
・自宅学習のための課題について：他科目で同じ週に課題が課されたときに学生負担が過大にならぬよう学科内/同学年/同コース内で情報共有して調整し、全体で適切な課題量になるようにしていきたい。

（その他）
・前年度アンケートで授業難易度が「やや難しい」との評価であったので指導内容・教材の再検討を行った。今後もさらなる改善を続けていく。
・全体的に授業での取り組み姿勢はとても良く、積極的に授業に参加してくれた。指導側と学生側のバランス良い授業となるよう再度更新していきたいと思う。
・実験授業では実験の実を上げるために遅刻/欠席を認めなかったが、交通機関要因を除き大きな混乱はなかった。皆よく努力したと言える。

2023 年度　授業改善アンケート結果に対する学科幼児保育学科の振り返り

	【2023 年度前期】			【2023 年度後期】		
	大学平均	前回平均	今回平均	大学平均	前回平均	今回平均
出席・課題提出	4.82	4.82	4.83	4.79	4.79	4.81
内容理解への取り組み	4.18	4.32	4.31	4.19	4.16	4.28
予習・復習	2.24	2.11	2.07	2.28	1.96	2.20
教員の説明	4.05	4.03	4.11	4.02	3.99	4.09
教科書や配布資料	4.10	4.05	4.17	4.08	4.06	4.10
黒板等の使い方	4.17	4.12	4.22	4.14	4.13	4.19
教員の熱意	4.24	4.18	4.32	4.21	4.24	4.32
質問への対応	4.03	3.96	4.14	4.01	4.05	4.15
到達目標の達成	3.90	4.05	4.03	3.98	4.08	4.13
授業内容の興味深さ	4.14	4.13	4.21	4.11	4.14	4.19
総合評価	4.18	4.16	4.20	4.15	4.16	4.22

１．2023 年度学科と大学の平均値の比較

2023 年度の学科と大学の平均値を比較すると、予習復習の設問以外には 3.90～4.83 の間で数値の分布傾向は同じであった。特に予習・復習は大学平均同様に、低い値で同様の分布傾向であった。

設問ごとの平均値の高低でみると、2023 年度後期において学科の平均値が「予習・復習関連」設問以外、前後期ともに全ての設問について大学平均より数値は高い。

また「予習・復習関連」設問も学科の平均値の方が大学の平均値より大幅に低いわけではない。

これらの結果は、学生が授業内容を理解するために積極的に取り組んだこと、到達目標を十分に達成できたことが評価されると思われる。

2．2023 年度と前年度（2022 年）の学科の平均値の比較

前期においては大きな差が見られないが、後期においては全ての項目で 2023 年度の方が前年度より高かった。この理由については、数値だけでは予測しにくいので、学科として今後はその要因を検討していく必要があると思われる。また、2023 年度と前年度（2022 年）とも「予習・復習」の平均値が低く、前年に比較して学生の予習・復習に費やす時間に改善は見られなかった。

3. 今後の課題

「予習・復習」の時間が少ないことについて改善していく必要がある。この時間の分布傾向を見ると前期、後期ともに 30 分以下が 69.1%から 72.1%の値を示し、全体の約 7 割の学生がほぼ予習・復習をしていない状況と言える（3 時間：前期 4.2%, 後期 4.2%、2 時間：3.1%, 4.8%、1 時間:23.6%, 18.9%、30 分以下:33.6%, 30.9%、なし：35.5%, 41.2%)。

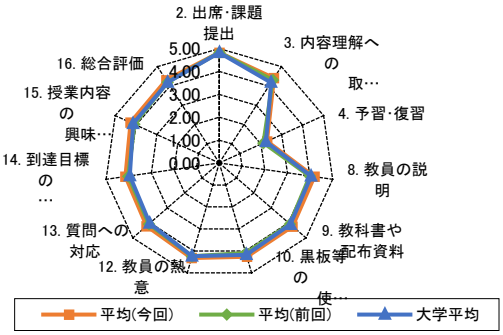
学科の特性から、演習科目および実技科目、実習指導関連の授業準備等に費やされる予習・復習の時間を正確にアンケートに充当する旨を学生に伝える指導が必要か、と考えられる。加えて、後期の設問の値が前年度より高いことの要因については、学科全体の情報共有を経て授業改善につなげる必要があると思われる。

学校教育学科　2023 年度授業改善アンケート結果のまとめ

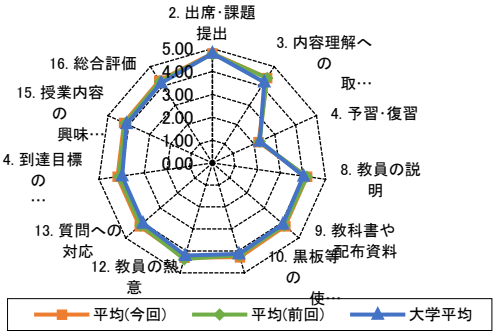
１．概況

2023 年度前期および後期のアンケート項目について、学校教育学科の平均値と大学平均値を比較したレーザーチャートは以下のとおりである。

チャートの形状からは、学科と大学の平均値に大きな違いは見られず、同じような回答傾向であることがわかる。また、チャートの形状で目立つ点は、項目 4 の予習・復習（質問「1 回の授業につき、あなたは予習・復習を平均してどのくらいしましたか」）で大きくスコアを落としている点であるが、これも学科と大学の傾向はほとんど同じであった。



学科前期スコア



学科後期スコア

２．設問ごとの学科と大学のスコアの比較

（１）学科スコアが大学スコアを上回る項目

学科平均値が大学平均値を 0.15 ポイント以上上回る項目、すなわち大学に比して学科の結果がやや優れていると考えられる項目は前後期両方で 4 項目であった。それは、設問.3「積極的な取り組み」、設問.8「教員の説明の仕方」、設問.13「質問への対応」、設問.14「到達目標への達成」であった。また、0.10 ポイント以上上回る項目は、設問.8「教員の説明の仕方」、設問.9「教科書や配布資料」、設問.10「提示資料の使い方」（後期のみ）、設問.15「興味深さ」であった。これらの項目からは、学生の学習意欲が高く、授業の学習成果も高かったと考えられ、受講者、授業者双方の取り組みに一定の評価ができそうである。なお、ここでは僅差で上回るものは省略する。

○設問 3　あなたは授業内容を理解するため積極的に取り組んだと思いますか。
（前期：大学 4.18／学科 4.41　　後期：大学 4.20／学科 4.42）

○設問 8　教員の説明の仕方はわかりやすいものでしたか。
（前期：大学 4.05／学科 4.19　　後期：大学 4.02／学科 4.18）

○設問 13　授業時間内外における質問への対応は適切でしたか。
（前期：大学 4.03／学科 4.21　　後期：大学 4.01／学科 4.21）

○設問 14　あなたはこの授業の開講時に示された到達目標を十分に達成したと思いますか。

（前期：大学 3.95／学科 4.15　　後期：大学 3.98／学科 4.18）

（２）学科スコアが大学スコアを下回る項目

一方、学科平均値が大学平均値を下回る項目はほぼなく、大学全体と比べるとより充実した授業が展開されていたことがうかがえる。（設問.4「予習・復習」で、後期のみ 0.06 ポイント下回ったのみ）

３．設問ごとの前年度とのスコアの比較

学科平均値が前年度より 0.15 ポイント以上上回る項目、すなわち前年度から改善がみられたと考えられる項目は前期で 5 項目であった。それは、設問.4「予習・復習」、設問.8「教員の説明の仕方」、設問.9「教科書や配布資料」、設問.10「提示資料の使い方」（後期のみ）、設問.15「興味深さ」であった。また、0.10 ポイント以上上回る項目は、設問.13「質問への対応」、設問.14「到達目標への達成」であった。これらの項目は、授業者の取り組みに関わる項目であり、授業改善が試みられたと評価ができよう。なお、後期についてはポイントの変化は見受けらなかったが、そもそも全般的に大学平均値よりも高いポイントであったことから、良き状態を維持できていたと捉えられる。

３．今後の改善に向けて

第 1 に、多くのアンケート項目において、学科平均値が大学平均値で上回ったことについては、学科全体として授業が改善傾向にあることを示唆している。2024 年度以降はカリキュラムを改訂し、授業科目の学期・学年の配当が変更になるが、ポイントの維持・向上ができるよう、引き続き学科内にて授業改善への機運を高めていきたい。

第 2 に、大学全体の特徴でもあるが、予習・復習時間のスコアが低い点について、さらなる改善が必要である。同設問の学科の回答数を詳細に見ると、前期・後期で類似した傾向で、３時間以上が 7%・6%（前期・後期）、２時間が 8%・7%、１時間が 22%・24%，30 分以下が 31%・27%、まったくしないが 32%、35%であった。この結果から、授業外での学習時間について、学生によってばらつきが大きく、かつ、その時間が短い学生が多いことがわかる。設問.4「予習・復習」のポイントが前年度に比べて向上しており、学科としては改善傾向にあるが、引き続き学科として授業時間外学習について検討を継続する必要があると考えられる。

以上

2023 年度・授業改善アンケートの結果に対する改善策

【1】授業に対する評価結果と課題

(1) 回答の概要

• 昨年度と同様、全科目の評価はキャンパス間での差異が少なく、全体的な平均と一致している。前期に比べて後期の評価がやや上昇する一方、昨年度の同時期調査に対して若干の上昇傾向が見られる。予習・復習にかける時間については、総じて昨年度よりも全分野で減少している。さらに前期と後期を比較すると、後期がさらに減少する傾向にある。

(2) 改善すべき課題

• 昨年度同様に、全体的にアンケート回答率が低く、回答率の改善が求められる。

• 昨年度と比較して、予習・復習の時間は前期と後期を比較すると後期がさらに減少している。全体としては短い傾向にある。

【2】課題に対する改善策

• 昨年度と同様に、回答率が高い科目（例：言語系や情報系科目）から学び、アンケートの実施方法を見直す。具体的には、アンケートの項目を厳選し、学生の負担を軽減する。

• 昨年度と同様に、予習・復習が授業理解度を向上させることを効果的に伝える。また、成績評価に予習・復習の時間を直結させる新たな評価体系の導入を検討する。

【3】その他の改善策

• 昨年度と同様に、多数のアンケートが実施され、「アンケート疲れ」が見られる。これに対応するため、アンケートの項目を厳選し、負担を軽減する。

• 昨年度と同様に、教員からのアンケートに対するフィードバックを学生が実感できない状況を改善する。フィードバックが学生に公開されるまでの時間を短縮し、授業改善に直接つながる方法を探求する。例えば、コメントシートを活用して学生の意見を随時収集し、その情報を授業改善に活かすといった方法を試みる。

2023年度授業改善アンケート振り返り

１、全体を受けての総合的見解

教職課程の学習は、教育学、心理学、児童福祉分野、および、各教科等、初めて学ぶ分野であるとともに、多岐にわたるため、教員の真摯な教材研究、丁寧な授業、学生対応が必要となる。

その点、質問への対応については、両キャンパスおおむね好評価である。また、積極的に授業に参加したかという点も評価を得られたが、これは、学生の側の意欲と教員の姿勢「授業は学生とともにつくるものであり、知見を学生とともに深め広げることで、学生自身が、受講生皆で深い知見に到達したことを実感できる授業構成」への工夫を各教員が行った成果であると考える。

また、自由記述に具体的で多様な記載があることも特徴であり、学生の意欲と捉える。教員の真摯な教材研究については、研究活動含めて、みな毎年成果を挙げているため、それらを学生と共有するなどし、学生の意欲を大切に学びの奥深さを感じられるようにしたい。

２、評価された点

上記に記載した通り、センター教員は、研究活動含めて真摯に取り組んでいるため、配布資料等への評価は良かった。また。課題提出や出席率等や参加感もよい数値である。これら踏まえ、学生の意欲を、学びの充実感と力量形成につなげられるよう取り組んでいきたい。

また、教育学系科目、教科教育に関する科目双方ともに、実際の実践から学べたことにより、教師としてのイメージが抱けたようであった。さらに、グループワークや、学生の相互評価で考えを深めることへの評価も高かった。また、学校での授業観察や、教員経験者の模擬授業等も行ったが、本学の学生は、他者から学ぼうする意欲が高いため、それらは引き続き、大切にしたい。

３、課題について

授業への積極的な参加については、学生の主体性、および、そこから生まれる協働的な学びといった教員になる上で形成しておきたい力量形成につながるものであり、大切にしたい。この点、教員だけではなく学生の努力で一定の成果が見られた。

なお、教員間で、教員は系統だって各学問を理解しているが、学生も、「自分自身で系統立てて物事を理解し、応用していく力（教員になってからの学校現場等で生かせる力量形成等)」をつけたいという意見がでたため、その点、今後も教職センター全員で協力して、授業力向上を目指したい。

４，総合的な教育活動にかかわって

授業では、実際の実践と理論の往還関係を学生と分析していく活動を各教員が行っている。そのため、「学校での『地域の方と一緒に子どもたちに学習支援をする』ボランティア」や、現在「子ども、教員、保護者、地域で学校づくりをする四者協議」等が盛んであるが、それらを学ぶべく「地域のお祭りを行政職、地域の方とつくるボランティア」への参加、加えて、教員や研究者（教育学、心理学、SC,SSW,児童福祉、家政学、看護学、矯正教育、法学分野等の研究者）が参加する研究会にも出かけ、そこで得た学びや知見と、授業の往還関係も、学生の意欲につながっていると考える。

以上。

●医学教育センター

例年同様に、多くの科目で難易度が『やや難しい』～『とても難しい』を選択した学生は多かったものの、全体的には『やや難しい』～『適切』の範囲内であり、授業の進行速度は『速すぎる』と感じた学生が少数いたものの、『やや速い』～『適切』と感じていた学生が多かったため、科目自体の内容の難しさを感じていると考えられる。予習復習にかける時間は科目により様々であったが、比較的難しいと感じている科目では時間が長めの傾向があり、努力する姿勢が見られた。基礎医学系科目は主に1・2年生に集中しており、大学に入学して急に始まる医療系の内容と分量に戸惑いを感じることも多いかとは思うため、引き続き解説を丁寧に行って拒否感を減らす、予習復習を前提としたレポートや小テストを用いて学生の理解度を都度確認するなどして、各学年に合わせた授業の改善を実施していく必要がある。また、臨床医学系科目は基礎医学系科目の習得が前提となるが、基礎医学系科目の内容の復習も含めながら授業を行うことで基礎から臨床へとの繋がりを理解しながらの授業展開となるよう、今後も医学教育センターのみならず、各学科や医学教育センター教員間でも情報を共有しながら授業を実施していきたい。

＜まとめ（学生の皆さんへ）＞

学生の皆さんが国家資格を取得するために習得すべき内容が決まっている中で、できるだけ皆さんに合わせた難易度で講義をするよう努めています。毎年、より分かりやすくなるよう視覚的な情報を増やしたり、平易な言葉で説明したりする等、改善を続けていますが、上位学年であれば下位学年で習得すべき内容をしっかり勉強できていないと、理解はかなり困難になります。そのため、学生の皆さん自身が予習復習等の授業外での学習を行うこと、授業を集中して聞き、できるだけ授業内に理解すること、授業内で理解できなかったことは放置しないでできるだけ早めに質問し解決すること、を心がけた姿勢を取ることが効果的な授業に繋がります。お互いに効果的な時間を過ごせるよう、一緒に改善していきましょう。また、授業内に理解できたと感じる場合は、授業の内容を超えた、更に難しい内容も意欲的に学習することをおすすめします。医学教育センターには皆さんの取得予定の国家資格とは異なる専門資格を持つ教員が多くいます。臨床に出た後には、分野の異なる専門職に気軽に質問できる環境は多くありません。大学在籍中に多くの疑問を持ち、積極的に質問する姿勢が取れるよう、心がけていきましょう。